

オアシス・オブ・ザ・シーズの 1 週間カリブ海クルーズ (その 2)

2024-3-26 事務局長 池田良穂

マイアミ港を出港した「オアシス・オブ・ザ・シーズ」の最初の寄港地はバハマのナッソーでした。距離が近いので出港後は 8 ノット程度でゆっくりと航海して、翌朝 8 時の入港でした。ナッソーの港には 2 隻のクルーズ客船が既に着岸しており、先行するホーランド・アメリカ・ラインの「ニュー・スタテンダム」に続いて入港し、3 本の細い栈橋が並ぶ港に 4 隻のクルーズ客船が並びました。

港には小さなお土産屋が並んだ商業施設が併設され、そこを出るとすぐにダウンタウンが広がっていました。レストランやバーもたくさんあり、4 隻の大型クルーズ客船の乗客で賑わっていました。500ml のミネラルウォーターが 2 ドルほどでしたから、マイアミに比べると少しは安いですが、日本円にすると 300 円近いためから結構の物価高です。港のクルーズ客船がよく見えるバーカウンターで飲んだ地元ビールの小瓶は 7 ドルで、邦貨で 1000 円を超えていました。

タクシーによる 2 時間半の観光ツアーに参加して、町を見て回りました。新大陸を発見したコロンブスの銅像が倒され、地元では虐殺者として非難されているとのこと。立場が変わると見方も変わります。



先行する「ニュー・スタテンダム」の後を追うように「オアシス・オブ・ザ・シーズ」はナッソーの港に入りました。



ナッソーの港の中には、すでに着岸したカーニバル・ラインの 2 隻のクルーズ客船の姿が見えました。



ナツソーの港に入る小型コンテナ船「トロピック・サン」です。



ナツソー港の4隻のクルーズ客船をいろいろな角度から撮影ができました。



オアシス・オブ・ザ・シーズ



カーニバル・エレーション



マルディ・グラ



ニュー・スタテンダム

夕刻、船はナッソーを出港して、同じバハマの RCI のプライベート島ココケイに向かいます。ここも近いので船は洋上をゆっくりと漂うように航海しました。ココケイは周辺の岩礁群の総称のようで、各クルーズ会社がプライベート島として整備しています。RCI の整備した島は、パーフェクト・デイ at ココケイと呼ばれており、大型客船が着岸できる長い栈橋が建設され、ビーチやスライダーなどが整備されていました。島上のレストランやバーは、RCI の客船の乗組員によって運営されていて基本的に船上と同じく無料です。ただし、スライダー等の施設はほとんどが予約制で有料でした。RCCL の時代から、同社はクルーズ客船の寄港地としてのプライベートビーチの整備をしており、ラバディーは半島をハイチ政府から 50 年契約で借款しており、現在も利用していますが、今回のクルーズではハイチの政情不安を理由にラバディーへの寄港は中止になりました。同じような性格の観光施設であるプライベートビーチに 2 ケ所も連続して寄港するには疑問をもっていました。今回、ココケイの施設を見て、ことさら、その感を強くしました。50 年の借款期間の終わりが近いラバディーの代わりとして、ココケイを整備したのか、カリブ海で運航されるクルーズ客船の増加に伴って 2 ケ所目として整備したのかは定かではありません。ただ乗客のセキュリティーを考えると、クルーズ客船の乗客・乗員だけがいるプライベートなビーチは安全なのは確かです。

さて、パーフェクト・デイでは「オアシス・オブ・ザ・シーズ」に続いて、16 万総トンの「フリーダム・オブ・ザ・シーズ」が着岸しました。全員が上陸したとすると両船で 1 万人以上の乗客がバハマでのマリッジを満喫したことになります。また、デッキ上から

見えた隣の岩礁にはオーシャニア・クルーズの「シレナ」が沖止めしており、ここもプライベート島として整備されているようでした。かつて乗船したプリンセス、NCL の船もココケイのプライベート島に寄港しました。



パーフェクトデイ・アト・ココケイ



僚船「フリーダム・オブ・ザ・シーズ」が続いて着岸作業中です。



2隻が並んで着岸しました。



パーフェクト・デイ at ココケイの島内地図です。



パーフェクト・ディ・アット・ココケイの隣の島には「シレナ」が沖止めされていました。「オアシス・オブ・ザ・シーズ」のデッキからの撮影です。